

キャラクター名
四之継イヴ

プレイヤー名

シンドローム	オルクス オルクス	ワークス	UGNエージェントA	カヴァー	中学生
オプション		年齢	15歳	性別	♀
覚醒	素体	衝動	破壊	初期侵食率	32 %
出自	両親不在	経験	喪失	邂逅	都築京香

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	24
肉体	0		0		1	1	行動値	6
感覚	2		0			2	(非装備時)	6
精神	2		0			2	戦闘移動	11
社会	4		0			4	全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃			RC	6		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	2	
運転:			芸術:	1		知識:			情報:	UGN	1
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
	RC	6r+6		7		装甲無視 同エン不可 5 (7)
	RC	13r+6		25		装甲無視 同エン不可 9 (11)

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ:要人への貸し	
コネ:情報屋	
コネ:手配士	
デモンズシード	
二重螺旋のリング	
ストレンジフェイス	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
触媒(カタリスト)	P	N		
空柄銀杏	P 信頼	N 恥辱		
妹たち	P 尽力	N 偏愛		
武田健吾	P 慕情	N 悔悟		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 12 残り財産P: 5

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コンセントレイト	3	2	メジャー					
効果: ウロボロス いつもの								
鋼の顎	2	3	メジャー	視界				
効果: 攻撃+7の射撃 シーンLV回 装甲無視 同エン不可								
縮地	2	2	オート	至近	自身	自動		
効果: 移動時好きな場所に移動。離脱可能								
妖精の手	5	4	オート	視界	単体	自動		
効果: いつもの シナLV回								
妖精の輪	1	4	オート	視界	単体	自動		
効果: 妖精の手と同時使用して更に乗せ								
完全なる世界	5	5	メジャー		単体	対決	10	
効果: ダイス+lv+1、攻撃力+×3								
絶望の領域	6	4	オート	視界	シーン選択		ピュア	
効果: ラウンド中、対象のダイス-lv×2								
仕組まれた幸運	★		メジャー	至近	自身	自動		
効果: ごく限定的な幸運を引き起こす。複雑な事象には適用不可								
テレキネシス	★		メジャー	視界	自身	自動		
効果: シーン内にある誰かが所持・装備していないアイテムを移動させる。RC判定								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

シナリオを挟むこと五話目にして、ついにUGN墮ちしたイヴ。ひょうひょうとしたマスクは剥がれ、残ったのは年相応の少女の素顔だった。輪廻の獣とウロボロスを失い、ゼノスにもいるあてがなくなったイヴは周囲の善意によりUGNに引き取られることになる。そこではもう素顔を偽る必要のない、楽しげであわただし毎日待っていることだろう。

復讐の理由の一つであった妹とは、思わぬ形で再会を果たした。もう二人が離れ離れになることもないだろう。以降二人は定期的に親交を交わしながら、残った妹たちを探したりするのではないか。彼女らもまた思わぬ形でこの先出てくることあるかもしれない。

復讐の対象であったプランナーに対しては、未だ複雑な感情のままである。復讐は失敗した、もう事実上この手が届くことはけてないだろう。感情面において、自分を捨てたことは憎い。自分が受けた境遇を思い起こせば、憎悪の感情はぬぐい切れない。それでも、それだけではない感情も芽生えていた。それは原始的にしてある意味複雑な想い。生まれながらにして縛られた血の鎖を、彼女はまだまだどききれてはいないが、それでもいつか何かの答えに辿り着く時は来るのではないか。孤独だった彼女の人生はこれからいろいろな人に囲まれて始まっていくのだから。

イヴは自分の復讐にはなるべく他の人を巻き込まないようにということを信条としていた。計画に他人の人生を巻き込むのは、自分が受けたやり方と同じだからだ。なので今回の作戦も最初はこのような結果になるはずではなかった。イヴがウロボロスのジャームを狩っていたのは当初プランナーの命であり、途中から侵蝕を受けていったイヴがそれを利用することを思いついたのである。衝動侵蝕を受けてもかろうじてポリシーを守っていたわけであったが、本編のとおり、色々やらかしてしまった彼女は現在、深い自己嫌悪と後悔の中にある。なかなか最初はいつものように軽口を叩いたりしては出来ないだろう。つまり、現在の彼女は本当にかなり相当なかなかに普通の十代女子である。オイ！ 落とすなら今だぞ！(?) とは言うが、現状異性には全く興味が無いどころか、トラウマ絡みの記憶もあり難易度はそこそこあると思われる。が、それでも挑戦したいというなら、私はいつでも待っているぞ！

それにしてもこの子、レスバ弱すぎ。